

チエツク

「地域学校協働活動」とは

地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていくそれぞれの活動を合わせて総称したものです。連携・協働する枠組みとしては、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等、幅広い住民等の参加が望まれます。活動の具体としては、学校支援活動、放課後子供教室、土曜日の教育活動、学びによるまちづくり、地域社会における地域活動等、幅広い地域住民等参加によって行われる様々な活動を指し、それぞれの地域や学校の実情や特色に応じ、多様な活動を推進することが期待されています。(国立教育政策研究所資料から引用)

今回の取組は、PTAと地域住民活動団体の協働参画事業となり、「地域学校協働活動」のモデルケースと言えます。

すばらしい地域の力



南側の法面整備



西側の法面の草を刈り「入谷小」の「谷」の文字が...



東側の急斜面もなんなく草刈り



学校裏(北側)もみるみるきれいに

9月27日(日)朝6時より入谷小学校PTA環境部事業である除草奉仕作業が行われました。当初は8月23日(日)に行われる予定でしたが感染症拡大防止の措置で期日を変更しました。この事業はPTAの活動というだけでなく入谷小学校コミュニティスクールの今年度「地域学校協働活動」3つの提案の一つでありグリーンウェア入谷構想促進委員会(以下GW委員会)との連携事業となります。開催に当たってはPTA環境部と地区行政区長会の山内敏裕会長、GW委員会の阿部國博会長が数回の会議を重ね実現に至りました。会議では、PTAだけでなく各地区から10名の出席や草運搬のための軽トラックの協力、人数増による駐車場の確保と交通整理担当者の配置、荒天による中止の連絡方法など様々なことが話し合われて実現となりました。当日は、薄曇りの天気の中で総勢100名以上の出席があり一斉に作業が行われる様子は圧巻の一言に尽き、みるうちに学校周辺がきれいになっていきました。各地区からの参加者は元入谷小PTA会員です。近年の奉仕作業では、なかなか手が回らなかった急な法面も「以前はここまでやっていた。」など口々に話しながら当然のように取り組んでいただきました。すばらしい「地域学校協働活動」となりました。

地域学校協働活動の推進へ



いりこみ通信

第20号
発行元
入谷小CS推進
委員会編集部



ホームページ
へのQRコード

展は子供たちにかかっています。南三陸町の農業の発展は子供たちがかかっています。



阿部さんご夫婦と1年生

ます。子供たちが食物がでる過程を身近に感じることで、将来は農業に携わってほしいという願いをもっています。南三陸町の農業の発展は子供たちにかかっています。

この『鳥よけ』がりんごを守ります



9月9日(水)午前9時から1年生が童子山の阿部農園に行き、1年生のりんごの木に『鳥よけ』を張る作業を行いました。せっかく順調に育っているりんごが鳥に突かれないようにするためです。学校で作った思い思いの『鳥よけ』は阿部さんにしっかり張っていただきました。2回の摘果作業の時より大分大きくなりました。りんごを見ては収穫の日を楽しみにしていました。指導をいただきました。阿部さんは、30年以上に渡り子供たちにりんごの栽培を教えています。

農業の発展を願いながら



きれいな花束ができるまで

9月10日(木)2・3校時に水口沢の西城さん宅において、2年生が生活科の菊栽培の学習を行いました。今年度、子供たちは実際に自分の鉢を持てませんでした。西城さんが菊の生長に合わせて栽培過程を見せてくれました。今回は、出荷に向けての準備と包装の仕方を説明してくれました。子供たちはきれいに切りそろえられた草花が機械を使って包装され店頭並べられるまでの作業を実際に行い、その難しさを体験できました。

命を大切に育てる心を育む

9月8日(火)より入谷小学校に蚕が搬入されました。4年生の総合的な学習の時間で行う養蚕体験です。日々、お世話をして、現在は上簇作業を終えて繭を作っている段階です。もうじきたくさんの繭玉ができます。この養蚕体験の指導は、桜沢地区の山内正男様をお願いしています。毎日、学校へ足を運んでいただき4年生の子供たちの命を大切に育てる心を育む活動に力をいただいています。入谷の伝統とよさについて学ぶ機会となっています。



蚕について説明する山内正男さん